

# CA ARCserve® Backup for Windows

Agent for VMware ユーザ ガイド

r12



本書及び関連するソフトウェア ヘルプ プログラム(以下「本書」と総称)は、ユーザへの情報提供のみを目的とし、CA はその内容を予告なく変更、撤回することがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複製、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。本書は、CA または CA Inc. が権利を有する秘密情報でかつ財産的価値のある情報で、アメリカ合衆国及び日本国の著作権法並びに国際条約により保護されています。

上記にかかわらず、ライセンスを受けたユーザは、社内で使用する場合に限り本書の合理的な範囲内の部数のコピーを作成でき、またバックアップおよび災害復旧目的に限り合理的な範囲内で関連するソフトウェアのコピーを一部作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を各コピーに添付することを条件とします。

ユーザの認可を受け、プロダクトのライセンス条項を遵守する、従業員、法律顧問、および代理人のみがかかるコピーを利用することを許可されます。

本書のコピーを印刷し、関連するソフトウェアのコピーを作成する上記の権利は、プロダクトに適用されるライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、そのライセンスが終了した場合には、ユーザは CA に本書の全部または一部を複製したコピーを CA に返却したか、または破棄したことを文書で証明する責任を負います。

該当するライセンス契約書に記載されている場合を除き、準拠法により認められる限り、CA は本書を現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証を含むいかなる保証もしません。また、本書の使用が直接または間接に起因し、逸失利益、業務の中断、営業権の喪失、情報の損失等いかなる損害が発生しても、CA はユーザまたは第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害について明示に通告されていた場合も同様とします。

本書及び本書に記載されたプロダクトは、該当するエンドユーザ ライセンス契約書に従い使用されるものです。

本書の制作者は CA および CA Inc. です。

「制限された権利」のもとでの提供:アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212, 52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、及び、DFARS Section 252.227-7014(b)(3)または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

本書に記載された全ての商標、商号、サービスマークおよびロゴは、それぞれの各社に帰属します。

Copyright © 2008 CA. All rights reserved.

## CA 製品の参照

このマニュアル セットは、以下の CA 製品を参照します。

- Advantage™ Ingres®
- BrightStor® ARCserve® Backup for Laptops and Desktops
- BrightStor® CA-1® Tape Management
- BrightStor® CA-Dynam®/B Backup for VM
- BrightStor® CA-Dynam®/TLMS Tape Management
- BrightStor® CA-Vtape™ Virtual Tape System
- BrightStor® Enterprise Backup
- BrightStor® High Availability
- BrightStor® Storage Resource Manager
- BrightStor® VM:Tape®
- CA ARCserve® Backup Agent for Novell Open Enterprise Server for Linux
- CA ARCserve® Backup Agent for Open Files on NetWare
- CA ARCserve® Backup Agent for Open Files on Windows
- CA ARCserve® Backup Client Agent for FreeBSD
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Linux
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Mainframe Linux
- CA ARCserve® Backup Client Agent for NetWare
- CA ARCserve® Backup Client Agent for UNIX
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Windows
- CA ARCserve® Backup Enterprise Option for AS/400
- CA ARCserve® Backup Enterprise Option for Open VMS
- CA ARCserve® Backup for Windows
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for IBM Informix
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Lotus Domino
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft Data Protection Manager
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft Exchange
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft SharePoint

- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft SQL Server
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Oracle
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Sybase
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for VMware
- CA ARCserve® Backup for Windows Disaster Recovery Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Disk to Disk to Tape Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Module
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for IBM 3494
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for SAP R/3 for Oracle
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for StorageTek ACSLS
- CA ARCserve® Backup for Windows Image Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Microsoft Volume Shadow Copy Service
- CA ARCserve® Backup for Windows NDMP NAS Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Serverless Backup Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Storage Area Network (SAN) Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Tape Library Option
- CA XOsoft™ Assured Recovery™
- CA XOsoft™
- Common Services™
- eTrust® Antivirus
- eTrust® Firewall
- Unicenter® Network and Systems Management
- Unicenter® Software Delivery
- Unicenter® VM:Operator®

## テクニカル サポートの連絡先

オンライン テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの Web サイト(<http://www.ca.com/jp/support/>)を参照してください。



# 目次

---

<b>第 1 章: エージェントの紹介</b>	<b>9</b>
概要.....	9
バックアップ処理における仮想マシンの管理方法.....	9
VMware Consolidated Backup の機能.....	11
VCB の制限事項.....	13
<b>第 2 章: エージェントのインストール</b>	<b>15</b>
Agent for VMware のライセンスを登録する方法.....	15
インストールの前提条件.....	16
Agent をインストールおよび設定する方法.....	16
サーバ管理を使用したエージェントのインストール.....	17
バックアップ プロキシ システムを使用した ESX Server システムのバックアップの設定.....	17
ARCserve VMware 環境設定ツールを使用した CA ARCserve Backup データベースへの入力.....	23
ca_vcbpopulatedb コマンド ライン ユーティリティを使用した CA ARCserve Backup データベースへの入力.....	27
ca_vcbpopulatedb 設定ファイルの作成.....	30
例.....	33
ca_vcbpopulatedb ユーティリティ リターン コード.....	34
ARCserve データベースに入力する時期.....	35
エージェントのアンインストール.....	36
<b>第 3 章: データのバックアップとリストア</b>	<b>37</b>
バックアップ ボリュームの参照方法.....	37
バックアップ モード.....	39
データのバックアップ.....	41
エージェントによるプレフライト チェック ユーティリティのサポート方法.....	43
VM バックアップ データのフィルタ.....	44
リストア セッションの参照方法.....	45
データのリストア.....	47
ファイル レベルのデータのリストア.....	47
raw (フル VM) レベル データのリストア.....	50
VCB バックアップ/リストアの制限事項.....	52

---

付録 A: トラブルシューティング	55
VM マウント処理の失敗 .....	55
VM マウント解除処理の失敗 .....	57
ARCserve VMware 環境設定ツールまたは ca_vcbpopulatedb の失敗.....	57
索引	59



# 第 1 章：エージェントの紹介

---

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[概要](#) (9 ページ)

[バックアップ処理における仮想マシンの管理方法](#) (9 ページ)

[VMware Consolidated Backup の機能](#) (11 ページ)

[VCB の制限事項](#) (13 ページ)

## 概要

CA ARCserve Backup は、アプリケーション、データベース、分散サーバおよびファイルシステム向けの包括的なストレージソリューションです。データベース、ビジネス クリティカルなアプリケーション、およびネットワーク クライアントにバックアップ機能およびリストア機能を提供します。

CA ARCserve Backup Agent for VMware は、CA ARCserve Backup が提供するエージェントの一種です。VMware では、VMware ESX Server および VMware VirtualCenter Server と統合された VMware Consolidated Backup (VCB) と呼ばれるメカニズムが提供されています。VCB を使用すると、仮想マシン (VM) のファイルとデータを保護できます。VCB を使用して VM バックアップ アクティビティを専用のプロキシシステムにオフロードできます。次に CA ARCserve Backup のバックアップ機能とリストア機能を使用して、仮想マシンを保護します。

## バックアップ処理における仮想マシンの管理方法

エージェントを使用すると、データをバックアップできるため、以下のような環境下では非常に便利です。

- ESX Server システムのリソースの制限を軽減したい。  
注：VMware ESX Server は、複数の VM 環境のシステム、ストレージ、およびネットワーク リソースを管理するアプリケーションです。
- 仮想マシン上にバックアップ エージェントを展開したくない。
- 使用環境が SAN (Storage Area Network) ファブリックまたは iSCSI ストレージから構成されており、VM は SAN または iSCSI ストレージ LUN 上に配置されている。
- ファイル レベルまたは raw (フル VM) レベルでデータをリストアする必要がある。

VCB を使用して、以下の管理タスクを実行することができます。

- VM のスナップショットを作成し、バックアップ データを 1 つまたは複数のバックアップ プロキシ システムにマウントまたはエクスポートして ESX Server システムの負荷を削除します。
- 任意の VMware をサポートしている Windows オペレーティング システムで実行している VM のファイル レベルのバックアップおよびリストアを実行します。
- 任意の VMware をサポートしているオペレーティング システムで実行している VM の raw (フル VM)レベルのバックアップおよびリストアを実行します。
- VM が SAN 上に配置されている場合、LAN (ローカル エリア ネットワーク)を使用しないバックアップを実行します。
- VM の起動状態に関係なく、VM をバックアップします。
- バックアップ プロキシ システムでバックアップを集中管理することにより、管理オーバーヘッドを軽減します。VM でエージェントを展開する必要がありません。

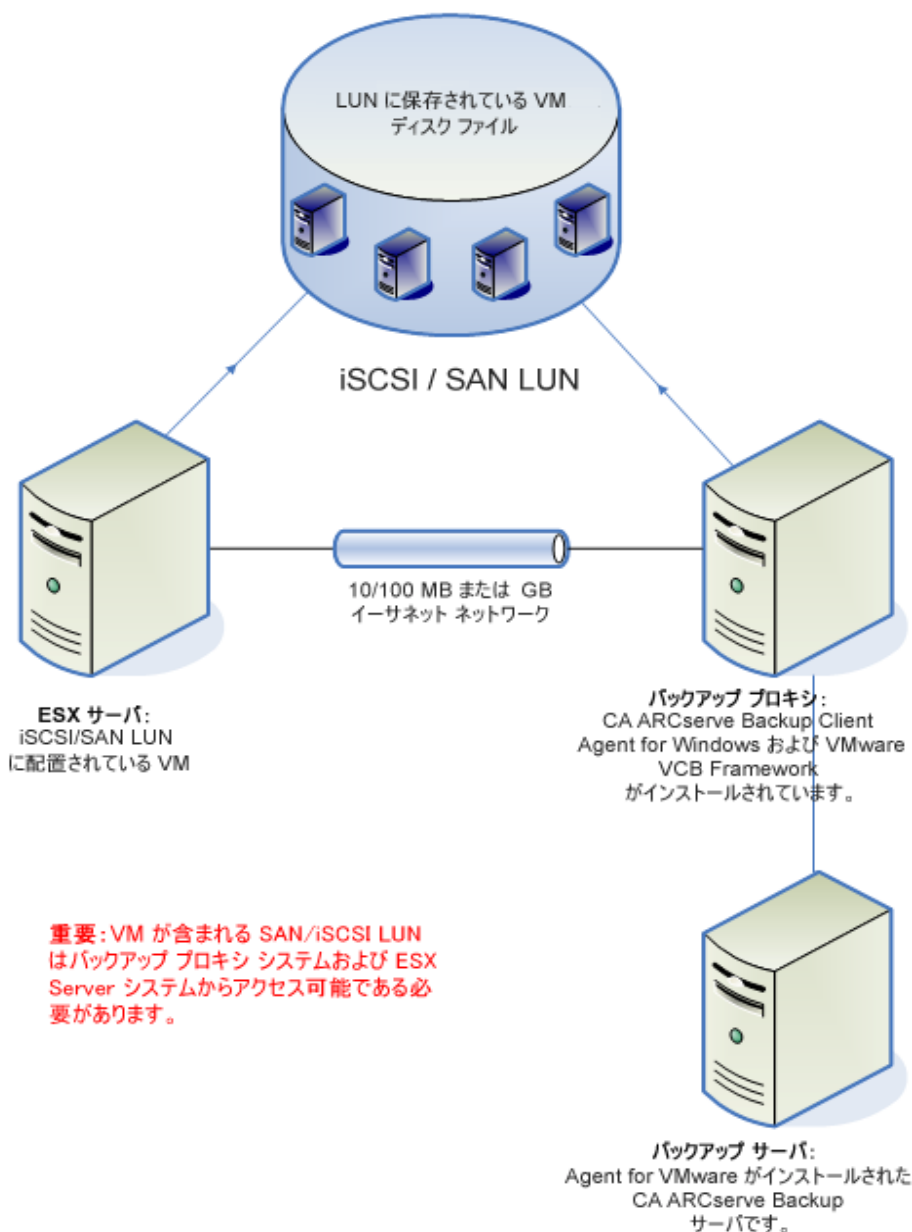
注: この機能を使用する場合は、バックアップ プロキシ システム上に CA ARCserve Backup Client Agent for Windows をインストールする必要があります。

## VMware Consolidated Backup の機能

エージェントを使用すると、バックアップ プロキシ システムを使用して raw VM (フル VM) およびファイル レベルの VM バックアップを実行することができます。

以下の図は、バックアップ プロキシ システムを使用して VM イメージまたはファイルをバックアップするネットワーク アーキテクチャを示しています。

CA ARCserve Backup Agent for VMware を使用した  
外部バックアップ プロキシ経由のバックアップ



ご使用の環境でこのアーキテクチャを展開する場合、以下の点を考慮してください。

- Microsoft .NET Framework Version 2.0 以降がバックアップ プロキシ システムで実行されている必要があります。
- VM が SAN LUN 上に配置されている場合、LUN は、ESX Server システムおよびバックアップ プロキシ システム間で共有され、同じ LUN 番号が割り当てられている必要があります。バックアップ プロキシ システムの LUN に署名することはできません。

**注:** この環境設定に関する最新情報を取得するには、VMware VCB のマニュアルを参照してください。

- raw (フル VM)レベル バックアップ方式では、特定の VM に関連付けられたディスクおよび構成ファイルのコピーがすべて作成されるため、VM 全体をリストアできます。

この方式は、惨事復旧処理に使用できます。

- ファイル レベル バックアップ方式では VM 内のディスクに含まれている個別のファイルのコピーを作成でき、これに全ファイルを含めることもできます。

この方式は、破損または誤って削除したファイルをリストアするような状況で使用できます。

- バックアップ ジョブをサブミットすると、VM の raw (フル VM)レベルまたはファイル レベルのバックアップを実行することができます。ジョブが実行されるプライマリサーバまたはメンバ サーバを指定する必要があります。

**重要:** VM のファイル レベルのバックアップを実行するには、VMware をサポートしている Windows オペレーティング システムが VM にインストールされている必要があります。

バックアップ ジョブが実行されると、プライマリ サーバまたはメンバ サーバはバックアップ プロキシ システム上で実行している Client Agent for Windows と通信します。Client Agent for Windows は VM のスナップショットを作成し、そのスナップショットをバックアップ プロキシ システム(デフォルトでは Client Agent for Windows のインストール ディレクトリ)にマウントまたはエクスポートします。

**注:** デフォルトのマウント パスを変更する場合の詳細については、「バックアップ プロキシ システムを使用した ESX Server システムのバックアップの設定」を参照してください。

Client Agent for Windows は root ディレクトリを上書きし、バックアップを VM から直接作成したかのように CA ARCserve Backup データベース レコードを作成します。この動作によって、確実に元の VM ロケーションにファイル レベル リストアが実行できます。

### 詳細情報

[バックアップ プロキシ システムを使用した ESX Server システムのバックアップの設定\(17 ページ\)](#)

## VCB の制限事項

ご使用の環境で VCB プロキシ バックアップを使用する場合には、以下の制限事項も考慮してください。

- 物理的に互換性のある RDM (Raw Device Maps)、独立型永続ディスク、および独立型非永続ディスクの仮想ディスクを使用する VM は、バックアップできません。
- SAN ストレージ LUN に格納されている VM をバックアップするには、LUN がバックアップ プロキシ システムからアクセスでき、同じ LUN 番号が割り当てられている必要があります。バックアップ プロキシ システムの LUN に署名することはできません。

注: この環境設定に関する最新情報を取得するには、VMware VCB のマニュアルを参照してください。

- 個別のファイルまたはディレクトリをバックアップするには、VMware がサポートされている Windows ベースのオペレーティング システムが VM 上で実行されている必要があります。
- VCB では、同時にマウントできる VM ボリュームは 60 までです。

### 例: VMware ボリュームの同時マウント

- 1 つの C:¥ ドライブに 60 の VM
- 2 つのボリューム(1 つの C:¥ ドライブと 1 つの D:¥ ドライブ)それぞれに 30 の VM

注: VCB のインストール、セットアップ、および使用制限の詳細については、VMware Web サイトの「Virtual Machine Backup Guide」を参照してください。



## 第 2 章：エージェントのインストール

---

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[Agent for VMware のライセンスを登録する方法](#) (15 ページ)

[インストールの前提条件](#) (16 ページ)

[Agent をインストールおよび設定する方法](#) (16 ページ)

[サーバ管理を使用したエージェントのインストール](#) (17 ページ)

[バックアップ プロキシ システムを使用した ESX Server システムのバックアップの設定](#) (17 ページ)

[ARCserve VMware 環境設定ツールを使用した CA ARCserve Backup データベースへの入力](#) (23 ページ)

[ca vcbpopulatedb コマンド ライン ユーティリティを使用した CA ARCserve Backup データベースへの入力](#) (27 ページ)

[ARCserve データベースに入力する時期](#) (35 ページ)

[エージェントのアンインストール](#) (36 ページ)

### Agent for VMware のライセンスを登録する方法

CA ARCserve Backup Agent for VMware はカウントベースのライセンス方法を使用します。VMware 環境で稼働している ESX Server システムそれぞれに対して 1 つの CA ARCserve Backup Agent for VMware ライセンスを登録する必要があります。エージェントのライセンスは、CA ARCserve Backup プライマリ サーバまたはスタンドアロンサーバ上で登録されます。

#### ライセンス登録の例

3 つの ESX Server システムがあり、ESX Server システム内の VM を VCB バックアップ プロキシ メカニズムを使用して保護するとします。

そのような場合は、3 つの Agent for VMware ライセンスを CA ARCserve Backup プライマリ サーバまたはスタンドアロン サーバに登録する必要があります。

## インストールの前提条件

このエージェントをインストールする前に、以下の前提条件を確認してください。

- ご使用のシステムが、エージェントのインストールに必要な最小要件を満たしていることを確認します。  
要件の詳細については、**Readme** ファイルを参照してください。
- 管理者権限があることを確認します。
- このエージェントをインストールするシステムの名前およびパスワードを確認します。
- Microsoft .NET Framework Version 2 以降がご使用の環境にインストールされ稼働しているかを確認します。

## Agent をインストールおよび設定する方法

エージェントのインストールには、2 つの方法が使用できます。

- **CA ARCserve Backup** のインストール中にエージェントをインストールします。  
エージェントは、**CA ARCserve Backup** のシステム コンポーネント、エージェント、およびオプションの標準的なインストール手順に従ってインストールします。
- **CA ARCserve Backup** のインストール後にエージェントをインストールします。  
**Server Admin** を使用すると、**CA ARCserve Backup** のインストール後にはいつでも、エージェントをインストールおよびアンインストールできます。

注：詳細については、[「サーバ管理を使用したエージェントのインストール」](#) (17 ページ)を参照してください。

エージェントをインストールして設定するには、以下のタスクを実行してください。

1. 「実装ガイド」に示されている **CA ARCserve Backup** のインストールに関する手順に従ってください。

注： エージェントをインストールするには、プライマリ サーバまたはスタンドアロンサーバのインストールのタイプを選択する必要があります。 エージェントは、メンバサーバのインストールをサポートしません。

2. **CA ARCserve Backup** プライマリ サーバまたはスタンドアロン サーバに **CA ARCserve Backup Agent for VMware** のライセンスをインストールします。
3. [「バックアップ プロキシ システムを使用した ESX Server システムのバックアップの設定](#) (17 ページ)」の説明に従って設定タスクを完了します。



## サーバ管理を使用したエージェントのインストール

エージェントは、CA ARCserve Backup のシステム コンポーネント、エージェント、およびオプションの標準的なインストール手順に従ってインストールします。ただし、CA ARCserve Backup のインストール時にエージェントをインストールしなかった場合は、サーバ管理を使用して、エージェントをインストールできます。

### サーバ管理を使用してエージェントをインストールする方法

1. ARCserve プライマリ サーバにログインします。  
CA ARCserve Backup マネージャ コンソールから、[クイック スタート]メニューで [サーバ管理]をクリックします。  
[サーバ管理]が開きます。
2. ドメイン ディレクトリ ツリーから、プライマリ サーバを右クリックして、コンテキスト メニューから[オプションのインストール/アンインストール]を選択します。  
[オプションのインストール/アンインストール]ダイアログ ボックスが開きます。
3. Agent for VMware の隣のチェック ボックスをオンにして、[OK]をクリックします。  
CA ARCserve Backup はエージェントをインストールします。
4. インストールが完了したら、「[バックアップ プロキシ システムを使用した ESX Server システムのバックアップの設定](#) (17 ページ)」の説明に従って設定作業を完了する必要があります。

## バックアップ プロキシ システムを使用した ESX Server システムのバックアップの設定

このセクションでは、バックアップ プロキシ システムを使用して VM イメージおよびファイルをバックアップするために環境をセットアップする方法について説明します。

### バックアップ プロキシ システムを使用して ESX Server システムのバックアップを設定する方法

1. ESX Server をインストールします。ESX Server の要件の詳細については、VMware Web サイト上の「VMware ESX Server インストール ガイド」を参照してください。

注：ESX Server を VMware VirtualCenter を使用して管理するには、VirtualCenter Server を Vitural Infrastructure インストールの一部としてインストールし、設定する必要があります。

2. 以下の環境条件のもとで、バックアップ プロキシ システムに VCB をインストールします。

- バックアップ プロキシ システム上で実行されるオペレーティング システムは、Windows 2003 Server (32 ビット)である必要があります。
- バックアップ対象の VM が SAN 上に配置されている場合は、バックアップ プロキシ システムが SAN ストレージ LUN にアクセスでき、同じ LUN 番号が割り当てられている必要があります。バックアップ プロキシ システムの LUN に署名することはできません。

**注:** VCB のインストール、セットアップ、および制限の詳細については、VMware Web サイトの「Virtual Machine Backup Guide」(英語)を参照してください。

3. ESX Server システムを使用した VCB Backup Proxy による VM のバックアップを設定するには、以下のいずれかの通信プロトコルを設定します。

**重要:** VirtualCenter Server システムを使用した VCB Proxy のバックアップを設定するには、手順 4 に進みます。

- https

https を ESX Server システムと バックアップ プロキシ システムとの間の通信プロトコルとして使用するには、自己生成した SSL 認証を ESX Server システムから バックアップ プロキシ システムにコピーして、バックアップ プロキシ システムにインストールする必要があります。

**注:** https は、ARCserve VMware 環境設定ツールおよび ca\_vcbpopulatedb ユーティリティで使用されるデフォルトの通信プロトコルです。https を使用すると、VCB バックアップ プロキシおよび ESX Server システムまたは VirtualCenter Server システム間で CA ARCserve Backup が通信できるようになります。

ESX Server システムの以下のディレクトリでは SSL 認証(rui.crt という名前)にアクセスすることができます。

```
/etc/vmware/ssl/rui.crt
```

SSL 認証をインストールするには、オブジェクトを右クリックしてコンテキストメニューから[インストール]を選択します。

**注:** SSL 認証に割り当てられたホスト名は、ca\_vcbpopulatedb コマンドライン ユーティリティを実行する場合に指定した ESX Server システムの名前に一致する必要があります。名前が一致しない場合、または SSL 認証のホスト名がない場合は、「サーバ認証が不正です。認証 CN 名が通過した値に一致しません」というメッセージが表示されます。続行するには[はい]を選択する必要があります。

■ http

http を バックアップ プロキシ システムと ESX Server システムとの間で通信プロトコルとして使用するには、/etc/vmware/hostd/config.xml にある config.xml ファイルで説明されているように、http プロトコルを ESX Server システムに設定する必要があります。

- a. <http> タグ内に <proxy Database> タグを配置します。
- b. <proxy Database> タグを使用して以下のテキストを追加します。

```
<server id="1">  
<namespace> /sdk </namespace>  
<host> localhost </host>  
<port> 8085 </port>  
</server>
```

- c. 以下のテキストを削除します。

```
<redirect id="2"> /sdk </redirect>
```

- d. 以下のコマンドを実行して VMware Infrastructure SDK Management Service を再起動します。

```
# service mgmt-vmware restart
```

注： 詳細については、VMware Web サイトの Virtual Infrastructure SDK のドキュメントを参照してください。

手順 5 に進みます。

4. VCB バックアップ プロキシおよび VirtualCenter Server システムを通じて VM のバックアップを設定するには、以下のいずれかの通信プロトコルを設定します。

- https

https を VirtualCenter Server システムと バックアップ プロキシ システムとの間の通信プロトコルとして使用するには、自己生成した SSL 認証を VirtualCenter Server システムから バックアップ プロキシ システムにコピーして、バックアップ プロキシ システムにインストールする必要があります。

注: https は、ARCserve VMware 環境設定ツールおよび ca\_vcbspopulatedb ユーティリティで使用されるデフォルトの通信プロトコルです。https を使用すると、VCB バックアップ プロキシおよび ESX Server システムまたは VirtualCenter Server システム間で CA ARCserve Backup が通信できるようになります。

ESX Server システムの以下のディレクトリから SSL 認証(rui.crt という名前)にアクセスすることができます。

```
C:¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥VMware¥VMware Virtual Center¥SSL¥rui . crt
```

SSL 認証をインストールするには、オブジェクトを右クリックしてコンテキストメニューから[インストール]を選択します。

注: SSL 認証に割り当てられたホスト名は、ca\_vcbspopulatedb コマンドライン ユーティリティを実行する場合に指定した VirtualCenter Server システムの名前に一致する必要があります。名前が一致しない場合、または SSL 認証のホスト名がない場合は、「サーバ認証が不正です。認証 CN 名が通過した値に一致しません」というメッセージが表示されます。続行するには[はい]を選択する必要があります。

■ http

http を バックアップ プロキシ システムと VirtualCenter Server システムとの間で通信プロトコルとして使用するには、以下のディレクトリにある vpxd.cfg ファイルの中で、以下に説明するように http プロトコルを VirtualCenter Server システムに設定する必要があります。

「C:¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥VMware¥VMware Virtual Center¥vpxd. cfg」

- a. <http> タグ内に <proxy Database> タグを配置します。
- b. <proxy Database> タグを使用して以下のテキストを追加します。

```
<server id="1">  
<namespace> /sdk </namespace>  
<host> localhost </host>  
<port> -2 </port>  
</server>
```

- c. 以下のテキストを削除します。

```
<redirect id="1"> /sdk </redirect>
```

- d. VMware VirtualCenter Server サービスを再起動します。

これは、サービスのコントロール パネルから行うことができます。

注： 詳細については、VMware Web サイトの「VMware VCB Backup ガイド」を参照してください。

手順 5 に進みます。

5. バックアップ プロキシ システムに CA ARCserve Backup Client Agent for Windows をインストールします。

6. バックアップ プロキシ システムで、Windows レジストリ エディタを開いて以下のレジストリ キーにアクセスします。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ComputerAssociates\CA ARCserve  
Backup\ClientAgent\Parameters
```

新しい文字列値を作成して以下の値の名前を指定します。

```
VMwareAgentBaseMountPath
```

文字列の値データを修正し、次の例のように、バックアップ処理中に一時的に VM をマウントするエージェントへのパスを指定します。

```
c: %mnt
```

**注:** このキー値のペアを作成しない場合は、VMware バックアップ ジョブが実行される際にエージェントによって作成されます。エージェントはバックアップ操作のマウント パスとして Client Agent for Windows にデフォルトのインストール パスを指定します。以下に例を示します。

```
C: %Program Files%CA\ARCserve Backup Client Agent for Windows
```

**重要:** VM の raw (フル VM) レベル バックアップを実行するには、バックアップ処理用のマウント パスとして指定されたボリュームに十分な空きディスク領域があることを確認してください。

7. ARCserve VMware 環境設定ツールを実行して CA ARCserve Backup データベースに VMware 環境についての情報を追加します。

オプションで、ca\_vcbpopulatedb コマンドライン ユーティリティを使用して ARCserve データベースに入力できます。

**重要:** このユーティリティを実行する場合、ESX Server システムの VM は実行状態である必要があります。VM が実行状態でない場合、このユーティリティは VM についての情報を CA ARCserve Backup データベースに入力しません。すべての VM にホスト名と IP アドレスが割り当てられていて、最新の VMware ツールがインストールされている必要があります。

## ARCserve VMware 環境設定ツールを使用した CA ARCserve Backup データベースへの入力

ARCserve VMware 環境設定ツールは、ご使用の ESX Server 上の VM に関する情報を CA ARCserve Backup データベースに入力するユーティリティです。このツールは、ca\_vcbspopulatedb と呼ばれる、バックグラウンドで実行されるコマンド ライン ユーティリティと統合され、ARCserve データベースに VM に関する情報を入力します。環境設定ツールを使用すると、以下の情報を CA ARCserve Backup データベースに入力できます。

- VCB バックアップ プロキシ名
- ESX Server または VirtualCenter Server の名前
- VM ホスト名
- Windows システムで VM に含まれるボリューム名

エージェントをインストールしたら、VM システムについての情報を CA ARCserve Backup データベースに追加する必要があります。これを行うには、バックアップ プロキシ システム上で ARCserve VMware 環境設定ツールを実行する必要があります。

**注：**このタスクを実行しなければ、ご使用の環境でバックアップ マネージャを使用して VM を検索することができません。

このタスクは定期的に行う必要があります。詳細については、「[ARCserve データベースへの入力する時期](#) (35 ページ)」を参照してください。

ARCserve VMware 環境設定ツールを使用して CA ARCserve Backup データベースへ入力する方法

1. ESX Server システムの VM が実行状態であることを確認します。

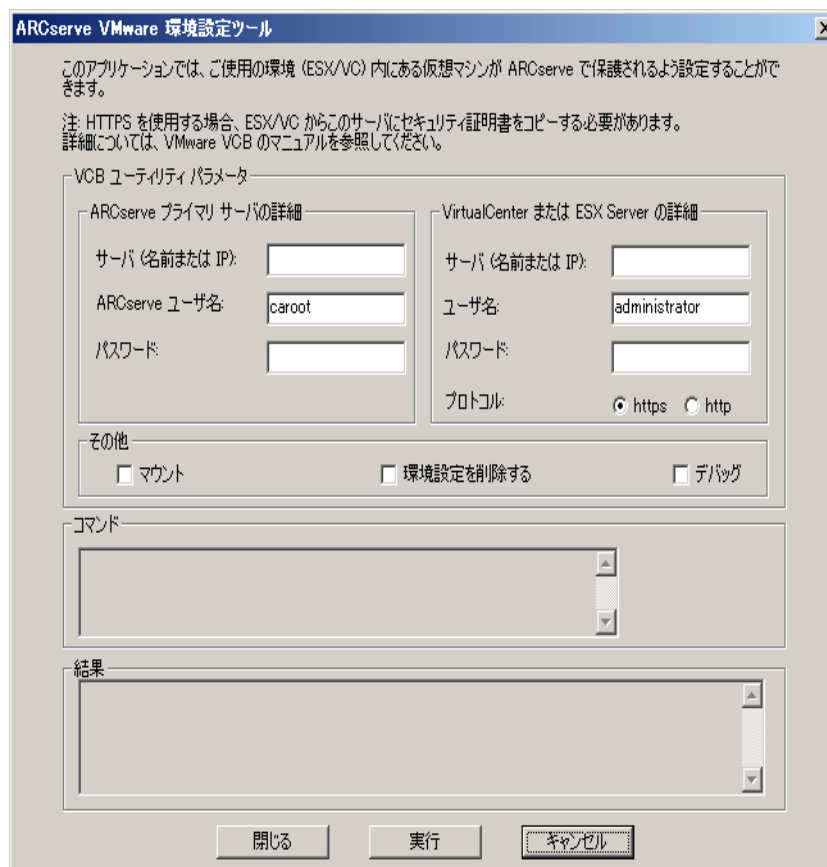
**注：**VM が実行状態でない場合、ARCserve VMware 環境設定ツールはデータを CA ARCserve Backup データベースに追加しないため、ESX Server システムの VM を正確に検索してバックアップすることができません。

- ARCserve VMware 環境設定ツールを開始するには、プロキシ システム上の Client Agent for Windows インストール ディレクトリを参照します。デフォルトでは、Client Agent for Windows は以下のディレクトリにインストールされています。

C:\Program Files\CA\ARCserve Backup Client Agent for Windows

VCBUI.exe をダブルクリックします。

ARCserve VMware 環境設定ツールが開きます。





3. 以下のフィールドに入力します。

#### ARCserve プライマリ サーバの詳細

ご使用のプライマリ サーバには以下のオプションが適用されます。

- サーバ(名前または IP): プライマリ CA ARCserve Backup システムの名前または IP アドレスを指定します。
- ARCserve ユーザ名: CAROOT アクセス権を持つ、プライマリ CA ARCserve Backup システムのユーザ名を指定します。
- パスワード: ARCserve ユーザ名に対するパスワードを指定します。

#### VirtualCenter または ESX Server の詳細

以下のオプションは、ご使用の環境の VMware Virtual Infrastructure に適用されます。

- サーバ(名前または IP): ESX Server システムまたは VirtualCenter Server の名前または IP アドレスを指定します。
- ユーザ名: 管理者権限を持つ ESX Server ユーザまたは VirtualCenter ユーザを指定します。
- パスワード: ESX Server システムまたは VirtualCenter Server のユーザ名に対するパスワードを指定します。
- プロトコル(オプション): バックアップ プロキシ システムおよび ESX Server システムまたは VirtualCenter Server システム間の通信プロトコルを指定します。

注: この引数を省略した場合は、ユーティリティは通信プロトコルとして https を使用するとみなします。

## その他

必要に応じて、以下のその他のオプションを指定し、ARCserve データベースに入力を行います。

## マウント

マウント オプションを有効にすると、環境設定ツールによって、iSCSI/SAN LUN ストレージ デバイス上にのみ配置されている稼働中の VM がデータベースに入力されます。このオプションを有効にすると、環境設定ツールは、iSCSI/SAN LUN 以外のストレージ メディアに配置されている ESX Server または VirtualCenter Server 内の VM をスキップします。

注：マウント オプションが有効な状態で環境設定ツールを実行すると、ユーティリティは実行中の VM ごとにマウント操作およびマウント解除操作が実行されるため、実行時間が長くなります。

## 環境設定を削除する

特定のバックアップ プロキシ システムに含まれる、特定の ESX Server システムまたは VirtualCenter Server システム用のデータベースの中で利用可能な VM を削除します。

## デバッグ

詳細なデバッグ ログを書き込みます。ログは、Client Agent for Windows インストール ディレクトリに作成されます。デフォルトではこのディレクトリは以下のとおりです。

C: ¥Program Files¥CA¥ARCserve Backup Client Agent for Windows

注：ログ ファイルの名前は ca\_vcbpopulatedb.log です。

4. [実行]ボタンをクリックします。

ARCserve VMware 環境設定ツールが ARCserve に入力します。

注：[結果]フィールドには、実行結果が表示されます。詳細なログ情報を表示するには、Client Agent for Windows のインストール ディレクトリにある ca\_vcbpopulatedb.log という名前のログ ファイルを開きます。

## 詳細情報

[ca\\_vcbpopulatedb ユーティリティ リターン コード \(34 ページ\)](#)

[ARCserve データベースに入力する時期 \(35 ページ\)](#)

## ca\_vcbpopulatedb コマンド ライン ユーティリティを使用した CA ARCserve Backup データベースへの入力

ca\_vcbpopulatedb ユーティリティはデータ収集ツールで、以下の情報を CA ARCserve Backup データベースに追加することができます。

- VCB バックアップ プロキシ名
- ESX Server または VirtualCenter Server の名前
- VM ホスト名
- Windows システムで VM に含まれるボリューム名

エージェントをインストールしたら、VM システムについての情報を CA ARCserve Backup データベースに追加する必要があります。これを行うには、CA ARCserve Backup Client Agent for Windows がインストールされているバックアップ プロキシ システムまたはその他の Windows 2003 (32 ビット)システムで ca\_vcbpopulatedb ユーティリティを実行する必要があります。

**注:** このタスクを実行しないと、ご使用の環境でバックアップ マネージャを使用して VM を検索することができません。

このタスクは定期的に行う必要があります。詳細については、[「ca\\_vcbpopulatedb ユーティリティを実行する場合」](#)(35 ページ)を参照してください。

### ca\_vcbpopulatedb コマンド ライン ユーティリティを使用して CA ARCserve Backup データベースに入力する方法

1. ESX Server システムの VM が実行状態であることを確認します。

**注:** VM が実行状態でない場合、ca\_vcbpopulatedb ユーティリティはデータを CA ARCserve Backup データベースに追加しないため、ESX Server システムの VM を正確に検索してバックアップすることができません。

2. バックアップ プロキシ システムにアクセスし、コマンド ライン ウィンドウを開いて ca\_vcbpopulatedb ユーティリティを実行します。

**重要:** このユーティリティは、CA ARCserve Backup Client Agent for Windows がインストールされているバックアップ プロキシ システムまたはその他の Windows 2003 (32 ビット)システムで実行する必要があります。

ca\_vcbpopulatedb ユーティリティは、Client Agent for Windows ディレクトリに保存されています。デフォルトでは、Client Agent for Windows は以下のディレクトリにあります。

C:\Program Files\CA\ARCserve Backup Client Agent for Windows

3. このユーティリティの実行には、2 通りの方法を使用できます。このユーティリティを実行するための方法を以下の中から 1 つ選択します。

- 以下の構文で説明されている引数を使用してコマンドを実行します。

```
ca_vcbpopulatedb -Primary <PrimaryServerName> -carootUser <ARCserve caroot User> -carootPass <ARCserve caroot password> [-vcb <VCBMachineName>]
-esxServer <ESXServerName> -esxUser <ESXAdmin> -esxUserPass
<ESXAdminPassword> [-proto <https/http>] [-vcbMountableVM] [-del Proxydb]
[-silent] [-debug]
```

**-Primary <PrimaryServerName>**

CA ARCserve Backup プライマリ システムのホスト名または IP アドレスを指定します。

**-carootUser <ARCserve caroot User>**

CA ARCserve Backup プライマリ システムの CAROOT 権限を持つユーザ名を指定します。

**-carootPass <ARCserve caroot Password>**

ユーザ名のパスワードを指定します。

**(オプション) -vcb <VCBMachineName>**

VCB バックアップ プロキシ システムの名前または IP アドレスを指定します。

注: この引数を省略した場合、ユーティリティは現在のマシン名を VCB マシン名として使用すると見なします。

**-esxserver <ESXServerName>**

iSCSI/SAN LUN 上に配置された VM を含む ESX Server システムまたは VirtualCenter Server システムの名前を指定します。

**-esxUser <ESXAdmin>**

管理者権限を持つ ESX Server システム ユーザまたは VirtualCenter システム ユーザの名前を指定します。

**-esxUserPass <ESXAdminPassword>**

ESXAdmin ユーザのパスワードを指定します。

**(オプション) -proto <https/http>**

バックアップ プロキシ システムと ESX Server システムまたは VirtualCenter Server システムの間の通信プロトコルを指定します。

注: この引数を省略した場合は、ユーティリティは通信プロトコルとして https を使用するとみなします。

#### -DelProxydb

特定のバックアップ プロキシ システムに含まれる、特定の ESX Server システムまたは VirtualCenter Server システム用のデータベースの中で利用可能な VM を削除します。

#### -VCBMountableVM

以下のオプションがあります。

このスイッチを使用して ca\_vcbpopulatedb コマンド ライン ユーティリティを実行する場合は、バックアップ プロキシ システム上で実行する必要があります。このスイッチを使用しない場合、CA ARCserve Backup Client Agent for Windows がインストールされているバックアップ プロキシ システム、またはその他の Windows 2003 (32 ビット)システムにおいて、ca\_vcbpopulatedb ユーティリティを実行することができます。

パラメータとしてこのスイッチを指定すると、ユーティリティによって iSCSI/SAN LUN ストレージ デバイスのみに配置されている、稼働中の VM の情報がデータベースに入力されます。このスイッチを指定した場合、ユーティリティは、iSCSI/SAN LUN 以外のストレージ メディアに配置された ESX Server にある VM をスキップします。

ESX Server のローカル ディスク、SAN LUN、NAS/NFS、または iSCSI ストレージ デバイスなど、複数のストレージ メディアに配置した 1 台の ESX Server に VM が存在する場合は、このスイッチを指定して ca\_vcbpopulatedb コマンド ライン ユーティリティを実行する必要があります。

このスイッチを含めると、ユーティリティは、iSCSI/SAN LUN ストレージ デバイスに配置された稼働中 VM の情報を CA ARCserve Backup プライマリ サーバ データベースのみに入力します。

**注：** VCBMountableVM スイッチを指定してこのユーティリティを実行すると、SAN LUN ストレージ デバイスに配置された稼働中の VM ごとにマウント操作およびマウント解除操作が実行されるため、実行時間が長くなることがあります。

#### -Silent

コマンド ライン コンソールにメッセージを表示させないようにします。

#### -Debug

ユーティリティに詳細なデバッグ ログを書き込むように指示します。ログは、Client Agent for Windows インストール ディレクトリに作成されます。デフォルトではこのディレクトリは以下のとおりです。

C:\Program Files\CA\ARCserve Backup Client Agent for Windows

**注：** ログ ファイルの名前は ca\_vcbpopulatedb.log です。

- 以下の構文で説明されている引数を使用してコマンドを実行します。

**注:** この構文を使用するには、設定ファイルを作成する必要があります。詳細については、「[ca\\_vcbpopulatedb 設定ファイルの作成 \(30 ページ\)](#)」を参照してください。

```
ca_vcbpopulatedb -config <config_file_name>
```

```
<config_file_name>
```

ca\_vcbpopulatedb 環境設定ファイルの名前を示します。

4. コマンドを実行します。

ca\_vcbpopulatedb ユーティリティは、ご使用の環境で実行状態にある VM に関する情報を CA ARCserve Backup データベースに追加します。

#### 詳細情報

[ca\\_vcbpopulatedb ユーティリティ リターン コード \(34 ページ\)](#)

[ARCserve データベースに入力する時期 \(35 ページ\)](#)

## ca\_vcbpopulatedb 設定ファイルの作成

CA ARCserve Backup プライマリ サーバ マシン、CA ARCserve Backup プライマリ ユーザ名などの詳細が記録された設定ファイルを作成します。ca\_vcbpopulatedb ユーティリティは、設定ファイルに指定されている情報を使用して CA ARCserve Backup データベースに追加します。

ca\_vcbpopulatedb 設定ファイルを作成するには

1. メモ帳などのテキスト エディタを開きます。ca\_vcbpopulatedb ユーティリティと同じディレクトリに .cfg ファイル拡張子の付いた環境設定ファイルを保存します。
2. 以下の構文で引数を入力します。

```
-Primary <PrimaryServerName> -carootUser <ARCserve caroot User> -carootPass  
<ARCserve caroot password> [-vcb <VCBMachineName>] -esxServer <ESXServerName>  
-esxUser <ESXAdmin> -esxUserPass <ESXAdminPassword> [-proto <https/http>]  
[-vcbMountableVM] [-del Proxydb] [-silent] [-debug]
```

**-Primary <PrimaryServerName>**

CA ARCserve Backup プライマリ システムのホスト名または IP アドレスを指定します。

**-carootUser <ARCserve caroot User>**

CA ARCserve Backup プライマリ システムの CAROOT 権限を持つユーザ名を指定します。

**-carootPass <ARCserve caroot Password>**

ユーザ名のパスワードを指定します。

**(オプション) -vcb <VCBMachineName>**

VCB バックアップ プロキシ システムの名前または IP アドレスを指定します。

注: この引数を省略した場合、ユーティリティは現在のマシン名を VCB マシン名として使用すると見なします。

**-esxserver <ESXServerName>**

iSCSI/SAN LUN 上に配置された VM を含む ESX Server システムまたは VirtualCenter Server システムの名前を指定します。

**-esxUser <ESXAdmin>**

管理者権限を持つ ESX Server システム ユーザまたは VirtualCenter システム ユーザの名前を指定します。

**-esxUserPass <ESXAdminPassword>**

ESXAdmin ユーザのパスワードを指定します。

**(オプション) -proto <https/http>**

バックアップ プロキシ システムと ESX Server システムまたは VirtualCenter Server システムの間の通信プロトコルを指定します。

注: この引数を省略した場合は、ユーティリティは通信プロトコルとして https を使用するとみなします。

**-DelProxydb**

特定のバックアップ プロキシ システムに含まれる、特定の ESX Server システムまたは VirtualCenter Server システム用のデータベースの中で利用可能な VM を削除します。

### -VCBMountableVM

以下のオプションがあります。

このスイッチを使用して `ca_vcbpopulatedb` コマンドライン ユーティリティを実行する場合は、バックアップ プロキシ システム上で実行する必要があります。このスイッチを使用しない場合、CA ARCserve Backup Client Agent for Windows がインストールされているバックアップ プロキシ システム、またはその他の Windows 2003 (32 ビット) システムにおいて、`ca_vcbpopulatedb` ユーティリティを実行することができます。

パラメータとしてこのスイッチを指定すると、ユーティリティによって iSCSI/SAN LUN ストレージ デバイスのみに配置されている、稼働中の VM の情報がデータベースに入力されます。このスイッチを指定した場合、ユーティリティは、iSCSI/SAN LUN 以外のストレージ メディアに配置された ESX Server にある VM をスキップします。

ESX Server のローカル ディスク、SAN LUN、NAS/NFS、または iSCSI ストレージ デバイスなど、複数のストレージ メディアに配置した 1 台の ESX Server に VM が存在する場合は、このスイッチを指定して `ca_vcbpopulatedb` コマンドライン ユーティリティを実行する必要があります。

このスイッチを含めると、ユーティリティは、iSCSI/SAN LUN ストレージ デバイスに配置された稼働中 VM の情報を CA ARCserve Backup プライマリ サーバ データベースのみに入力します。

**注:** VCBMountableVM スイッチを指定してこのユーティリティを実行すると、SAN LUN ストレージ デバイスに配置された稼働中の VM ごとにマウント操作およびマウント解除操作が実行されるため、実行時間が長くなることがあります。

### -Silent

コマンドライン コンソールにメッセージを表示させないようにします。

### -Debug

ユーティリティに詳細なデバッグ ログを書き込むように指示します。ログは、Client Agent for Windows インストール ディレクトリに作成されます。デフォルトではこのディレクトリは以下のとおりです。

C:\Program Files\CA\ARCserve Backup Client Agent for Windows

**注:** ログ ファイルの名前は `ca_vcbpopulatedb.log` です。

3. 設定ファイルを閉じて保存します。

### 詳細情報

[ca\\_vcbpopulatedb ユーティリティ リターン コード \(34 ページ\)](#)



## 例

ca\_vcbpopulatedb コマンドの構文例は以下のとおりです。

- 以下のコマンドを使用して、ホスト名「ESXServer1」を持つ ESX サーバの VM の詳細を、デバッグ フラグをセットした状態で http プロトコルを使用して VCB プロキシ マシン「VCBProxy1」の下にある ARCserve サーバの「ARCserver1」データベースに入力します。

```
ca_vcbpopulatedb.exe -PrimaryARCserver1 -carootUser caroot -carootPass ca123 -vcb  
VCBProxy1 -esxServer ESXServer1 -esxUser root -esxUserPass rootpasswd -proto http  
-debug
```

- 以下のコマンドを使用して、ホスト名「ESXServer1」を持つ ESX サーバの VM の詳細すべてを、デバッグ フラグを解除した状態で VCB プロキシ マシン「VCBProxy1」の下にある ARCserve サーバの「ARCserver1」データベースから削除します。

```
ca_vcbpopulatedb.exe -PrimaryARCserver1 -carootUser caroot -carootPass ca123 -vcb  
VCBProxy1 -esxServer ESXServer1 -esxUser root -esxUserPass rootpasswd -del Proxydb
```

- 以下のコマンドを使用して、ホスト名「ESXServer1」を持つ ESX サーバの VM の詳細を、VCB プロキシ マシン「VCBProxy1」の内部で VM のみマウント可能な状態で、デバッグ フラグをセットして ARCserve サーバの「ARCserver1」データベースに入力します。

```
ca_vcbpopulatedb.exe -PrimaryARCserver1 -carootUser caroot -carootPass ca123 -vcb  
VCBProxy1 -esxServer ESXServer1 -esxUser root -esxUserPass rootpasswd  
-vcbMountableVM -debug
```

## ca\_vcbpopulatedb ユーティリティ リターン コード

ca\_vcbpopulatedb ユーティリティが生成するリターン コードは、ca\_vcbpopulatedb.log という名前のログ ファイルに書き込まれます。ログは、ca\_vcbpopulatedb ユーティリティの実行が終了した後で、Client Agent for Windows インストール ディレクトリに作成されます。

ca\_vcbpopulatedb ユーティリティは以下のリターン コードを生成します。

0

操作が正常に行われたことを示します。

1

無効な引数が指定されてことを示します。

2

CA ARCserve Backup ドメイン ユーザ認証に失敗したことを示します。

3

ESX Server または VirtualCenter Server のユーザ認証エラーが発生したことを示します。

4

ESX Server または VirtualCenter Server の接続で障害が発生したことを示します。

5

データベース操作で障害が発生したことを示します。

6

XML 作成で障害が発生したことを示します。

7

ご使用の環境に Microsoft .NET version 2.0 以降がインストールされていないことを示します。

8

複数の ca\_vcbpopulatedb インスタンスが現在実行中であることを示します。

9

不明なエラーが発生したことを示します。

## ARCserve データベースに入力する時期

定期的に ARCserve VMware 環境設定ツールまたは `ca_vcbpopulatedb` コマンドラインユーティリティを使用して ARCserve データベースに入力し、CA ARCserve Backup データベースに VM および ESX Server システムのボリュームに関する最新情報が含まれるようにします。

バックアップ プロキシ システムに CA ARCserve Backup をインストールする場合、バックアップ プロキシ システムがプライマリ サーバまたはメンバ サーバであるとき、一般ジョブ スケジューラを使用して `ca_vcbpopulatedb` ユティリティを定期的に実行できます。一般ジョブ スケジューラを使用してジョブをスケジューリングする詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

さらに、以下のイベントが発生したらすぐに ARCserve データベースに入力されるようにします。

- 最後に ARCserve データベースに入力した際にオフにした VM をオンにした。
- Windows VM に新しいボリュームを追加するか、削除し、最後に ARCserve データベースに入力した際に Windows VM が実行されていた。
- ESX Server システムから VM を削除または移動した。

**注:** VM が 1 つの ESX Server システムから別の ESX Server システムへ VMotion を使用してマイグレートされる場合、ARCserve データベースに再度入力する必要はありません。

## エージェントのアンインストール

Agent for VMware は ARCserve プライマリ サーバベースまたはスタンドアロン サーバベースのインストールです。この種類のエージェントおよびオプションをアンインストールするには、CA ARCserve Backup サーバ管理を使用する必要があります。

**注:** Agent for VMware は、Windows の[コントロール パネル]の[アプリケーションの追加と削除]には表示されません。

### エージェントをアンインストールする方法

1. ARCserve プライマリ サーバにログインします。  
CA ARCserve Backup マネージャ コンソールから、[クイック スタート]メニューで [サーバ管理]をクリックします。  
[サーバ管理]が開きます。
2. ドメイン ディレクトリ ツリーから、プライマリ サーバを右クリックして、コンテキスト メニューから[オプションのインストール/アンインストール]を選択します。  
[オプションのインストール/アンインストール]ダイアログ ボックスが開きます。
3. Agent for VMware の隣のチェック ボックスをオフにして、[OK]をクリックします。  
CA ARCserve Backup はエージェントをアンインストールします。

## 第 3 章：データのバックアップとリストア

---

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[バックアップ ボリュームの参照方法](#) (37 ページ)

[バックアップ モード](#) (39 ページ)

[データのバックアップ](#) (41 ページ)

[VM バックアップ データのフィルタ](#) (44 ページ)

[リストア セッションの参照方法](#) (45 ページ)

[データのリストア](#) (47 ページ)

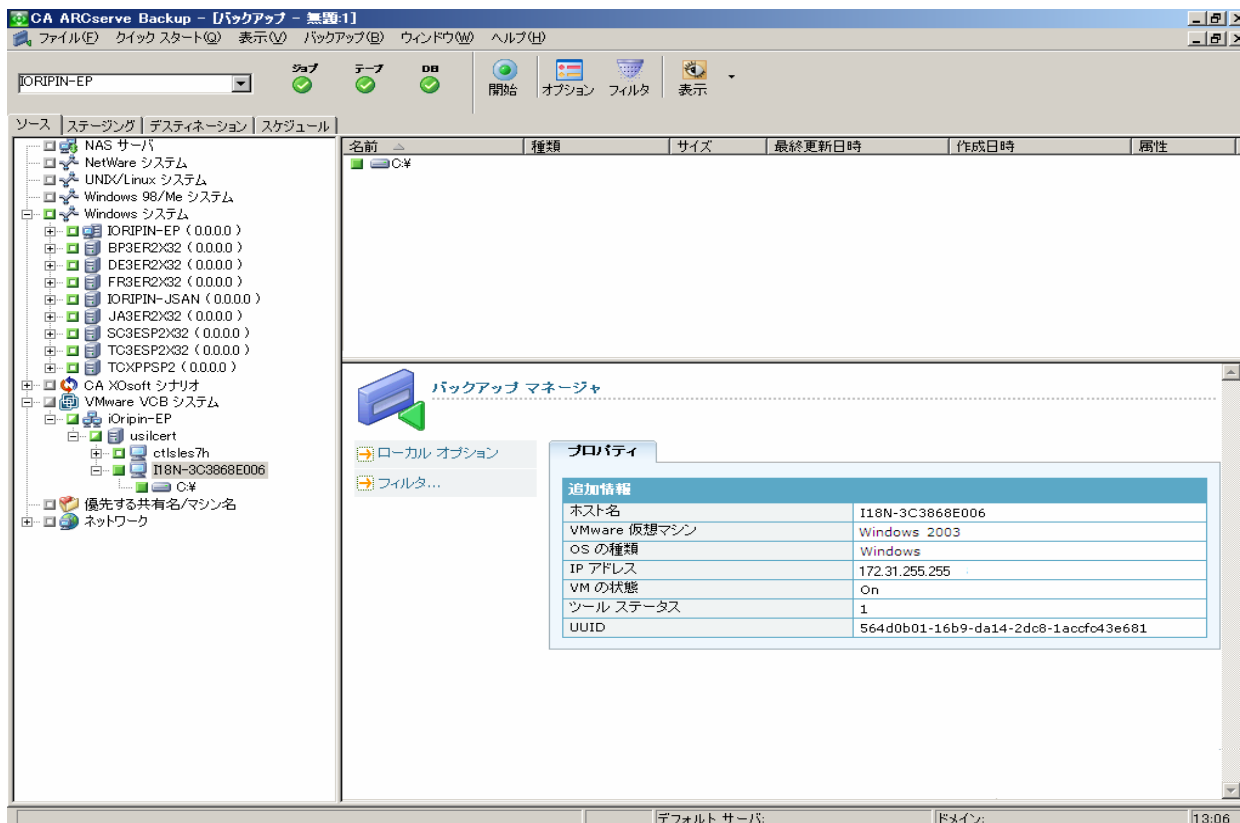
[VCB バックアップ/リストアの制限事項](#) (52 ページ)

### バックアップ ボリュームの参照方法

ARCserve VMware 環境設定ツールを使用して CA ARCserve Backup データベースにデータを入力すると、バックアップ マネージャにより、バックアップ プロキシ システム、ESX Server システムまたは VirtualCenter Server システム、および VM に関する情報をディレクトリ ツリー構造で表示できるようになります。

VM で VMware 対応の Windows ベースのオペレーティング システムを実行している場合は、VM 上でボリュームを参照できます。

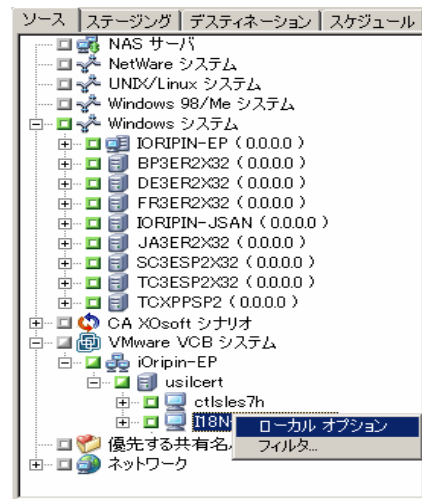
以下の図では、バックアップ マネージャ ウィンドウに[ソース]タブが表示されています。VMware VCB システム オブジェクトが展開されて、Windows オペレーティング システム内の VMware VCB システム、バックアップ プロキシ システム、ESX Server システムまたは VirtualCenter Server システム、および VM ポリ्यूムの名前が表示されています。



- バックアップ ジョブをサブミットすると、ESX Server システムまたは VirtualCenter Server システムのユーザ名とパスワード認証情報を入力するように求められます。CA ARCserve Backup は、認証情報を実行時に検証します。
- VM レベルでは、raw モード(フル VM)またはファイル モードで参照できます。VM をファイル レベルで参照するには、VMware 対応 Windows オペレーティング システムが VM にインストールされている必要があります。
- 参照モードは、以下のとおりです。
  - Windows VM - ファイル モードおよび raw モード(フル VM)。
  - Windows 以外の VM - raw モード(フル VM)のみ。

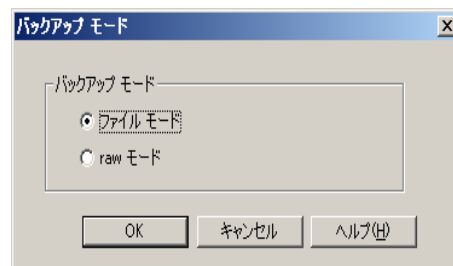
## バックアップ モード

以下の画面は、バックアップ マネージャ ウィンドウに[ソース]タブが表示されている様子を示しています。VMware VCB Systems オブジェクトは VM レベルに選択されて展開されました。Windows VM を選択して右クリックすると、コンテキスト メニューが図のように開きます。



ジョブにバックアップ モードを指定するには、コンテキスト メニューから[ローカル オプション]を選択します。

以下のような[バックアップ モード]ダイアログ ボックスが開きます。



[バックアップ モード]ダイアログ ボックスを使用すると、ジョブのバックアップ モードを指定することができます。以下のオプションを使用して VM に保存されているデータをバックアップすることができます。

#### ファイル モード

以下の操作を実行できます。

- VMware がサポートされている Windows オペレーティング システムを実行する VM に含まれているファイルおよびディレクトリをバックアップする。
- フル バックアップ、増分バックアップ、および差分バックアップを実行する。
- ファイル レベルの単位でデータをリストアする。
- マルチストリーミング オプションを使用して複数のデータ ストリームを同時に処理する。
- [フィルタ]オプションを使用してデータをフィルタする。

**注:** バックアップ データのフィルタの詳細については、「管理者ガイド」またはオンライン ヘルプを参照してください。

**重要:** フル VM のファイル レベルのバックアップを実行するのに必要な経過時間は、同じ VM の raw (フル VM)レベルのバックアップを実行するのに必要な経過時間よりも大きくなっています。

#### raw モード

以下の操作を実行できます。

- フル VM イメージのフル バックアップのみを実行する。
- マルチストリーミング オプションを使用して複数のデータ ストリームを同時に処理する。

**注:** raw モードでは、ファイル レベルの単位でリストアすること、または raw (フル VM)データをフィルタすることはできません。raw モード(フル VM)に適用されているフィルタは実行時に無視されます。



## データのバックアップ

データをバックアップする処理は、ファイル、ボリューム、またはノードをバックアップする処理と同じです。

注: VCB を使用してバックアップする場合の制限事項の詳細については、「[VCB バックアップ/リストアの制限事項 \(52 ページ\)](#)」を参照してください。

### データをバックアップするには

1. [バックアップ マネージャ]を開いて[ソース]タブを選択します。

[バックアップ マネージャ]ソース ディレクトリ ツリーが表示されます。

2. [VMware VCB Systems]オブジェクトを展開します。

VMware がサポートされている Windows ベースのプラットフォーム上のバックアップ プロキシ システム、ESX Server システムまたは VirtualCenter Server システム、VM、および VM ボリュームが表示されます。

3. バックアップするオブジェクトを選択します。ソースとしてボリューム、ノード全体、またはその組み合わせを選択できます。

バックアップするオブジェクトを右クリックしてコンテキスト メニューから[ローカル オプション]を選択します。

[バックアップ モード]ダイアログ ボックスが開きます。

4. [ファイル モード]または[raw モード]を選択して[OK]をクリックします。

注: バックアップ モードの詳細については、「[バックアップ モード \(39 ページ\)](#)」を参照してください。

CA ARCserve Backup は、バックアップ モードを適用します。

5. VM バックアップ データをフィルタするには、VM を右クリックしてコンテキスト メニューから[フィルタ]を選択します。

注: フィルタの詳細については、「[VM バックアップ データのフィルタ \(44 ページ\)](#)」を参照してください。

**重要:** 指定されているバックアップ モードが raw モードでフィルタを指定すると、CA ARCserve Backup は VM バックアップ データをフィルタしません。

6. バックアップ ジョブを保存する場所を指定するには、[デスティネーション]タブまたは[ステーjing]タブをクリックします。

注: デスティネーションを指定またはステーjingを使用してデータをバックアップする方法の詳細については「[管理者ガイド](#)」またはオンライン ヘルプを参照してください。

マルチストリーミングを使用してバックアップ データを転送するには、[マルチストリーム]チェック ボックスをクリックします。

7. ジョブにスケジュール オプションを指定するには、[スケジュール]タブをクリックします。

注: ジョブ スケジュール オプションの詳細については「管理者ガイド」またはオンライン ヘルプを参照してください。

8. [グローバル フィルタ]を指定するには、ツールバーの[フィルタ]ボタンをクリックします。

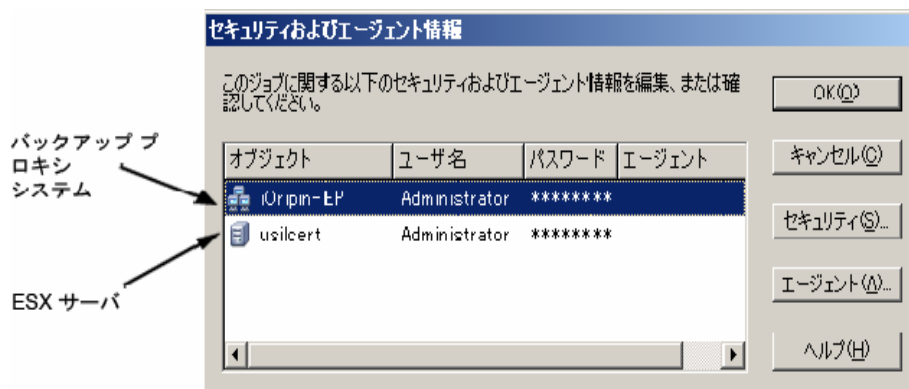
[フィルタ]ダイアログ ボックスが開きます。

注: VM データのフィルタの詳細については、「[VM バックアップ データのフィルタ](#)(44 ページ)」を参照してください。フィルタの指定の詳細については、[フィルタ]ダイアログ ボックスの[ヘルプ]ボタンをクリックしてください。

9. ツールバーの[開始]ボタンをクリックし、ジョブをサブミットします。

[セキュリティおよびエージェント情報]ダイアログ ボックスが開きます。

ジョブをサブミットするには、以下の図のように ESX Server または VirtualCenter Server、およびバックアップ プロキシ システム認証情報を入力する必要があります。



10. 該当するサーバを選択し、[セキュリティ]ボタンを[セキュリティおよびエージェント情報]ダイアログ ボックスでクリックします。

[セキュリティ]ダイアログ ボックスが開きます。

11. ログイン認証を[ユーザ名]および[パスワード]フィールドに入力して[OK]をクリックします。

**注:** CA ARCserve Backup では、23 文字を超えるパスワードでのシステムへのログインをサポートしていません。ログインしようとしているシステムのパスワードが 23 文字を超える場合は、エージェント システムにおいてパスワードが 23 文字以下になるように修正すると、エージェント システムにログインできます。

セキュリティ認証情報が適用され、[ジョブのサブミット]ダイアログ ボックスが開きます。

12. [ジョブのサブミット]ダイアログ ボックスでフィールドに入力して、[OK]をクリックします。

**注:** ジョブのサブミットの詳細については、[ジョブのサブミット]ダイアログ ボックスの[ヘルプ]ボタンをクリックしてください。

CA ARCserve Backup がジョブをサブミットします。

**注:** ジョブ ステータスの表示と他のジョブ関連タスクの詳細については、「管理者ガイド」またはオンライン ヘルプを参照してください。

### 詳細情報

[VMware Consolidated Backup の機能 \(11 ページ\)](#)

[バックアップ ボリュームの参照方法 \(37 ページ\)](#)

[VCB バックアップリストアの制限事項 \(52 ページ\)](#)

## エージェントによるプレフライト チェック ユーティリティのサポート方法

プレフライト チェック (PFC) ユーティリティを使用すると、CA ARCserve Backup サーバおよびエージェントに対して重要なチェックを事前に実行することで、バックアップ ジョブの失敗の原因となる問題を検出します。

Agent for VMware バックアップの場合は、PFC ユーティリティはバックアップ プロキシシステム上で実行している Client Agent for Windows のステータスをチェックします。PFC は、ESX Server システムまたは VirtualCenter Server システムでバックアップに指定した VM のステータスをチェックしません。

**注:** PFC ユーティリティの使用の詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

PFC ユーティリティは、以下のような状況では、VMware ESX Server バックアップに以下のチェックを実行します。

- バックアップ ジョブは、エージェントを使用してサブミットされます。 Client Agent for Windows は、VCB プロキシ システム上で実行されます。

以下のメッセージが表示されます。

注: ターゲット ノード <VCB Proxy System's Name/IP> は VMware VCB Proxy System です。 PFC は、VMware VCB Proxy Server 上の Client Agent の状態のみを検証します。 VMware ESX Server 上のバックアップに選択した仮想マシンの状態はチェックしません。

- バックアップ ジョブは、エージェントを使用してサブミットされます。 Client Agent for Windows は、VCB プロキシ システム上で実行されません。

以下のメッセージが表示されます。

問題: <VCB Proxy System's Name/IP> 上のクライアント エージェントの接続に失敗しました。 <VCB Proxy System's Name/IP> 上のクライアント エージェントが実行中であることを確認してください。

注: ターゲット ノード <VCB Proxy System's Name/IP> は VMware VCB Proxy System です。 PFC は、VMware VCB Proxy Server 上の Client Agent の状態のみを検証します。 VMware ESX Server 上のバックアップに選択した仮想マシンの状態はチェックしません。

## VM バックアップ データのフィルタ

VM が VMware をサポートする Windows オペレーティング システムを実行し、ユーザがファイル モード バックアップを実行している場合は、VM バックアップ データをフィルタすることができます。この方式により、以下のタスクを実行できます。

- ファイル パターン、日付範囲、更新された日付、ファイル サイズなど、VM ベースのデータのみをバックアップする。
- 選択したボリュームのファイル、フォルダ、または両方を選択してバックアップする。
- バックアップ ジョブにグローバルまたはローカルにフィルタリング基準を適用する。

注: グローバル フィルタは、すべてのバックアップ ジョブに適用されますが、ローカル フィルタは、選択した VM にのみ適用されます。

### VM バックアップ データをフィルタする方法

1. [バックアップ マネージャ]ウィンドウを開いてフィルタする VM を参照します。
2. 以下のいずれかの操作を実行します。
  - バックアップ処理にグローバルフィルタを適用する場合は、[バックアップ マネージャ]ウィンドウのツールバーの[フィルタ]ボタンをクリックします。
  - バックアップ処理にローカルフィルタを適用する場合は、VM オブジェクトを右クリックしてコンテキスト メニューから[フィルタ]を選択します。  
[フィルタ]ダイアログ ボックスが開きます。
3. バックアップ ジョブを完了するために必要なフィルタを指定します。  
データのフィルタの詳細については、[フィルタ]ダイアログ ボックスの[ヘルプ]ボタンをクリックしてください。

#### 詳細情報

[データのバックアップ \(41 ページ\)](#)

## リストア セッションの参照方法

VM 内のデータをリストアするプロセスは、他の物理サーバからリストアするプロセスと同じです。

**注:** データのリストアの詳細については、「管理者ガイド」またはオンライン ヘルプを参照してください。

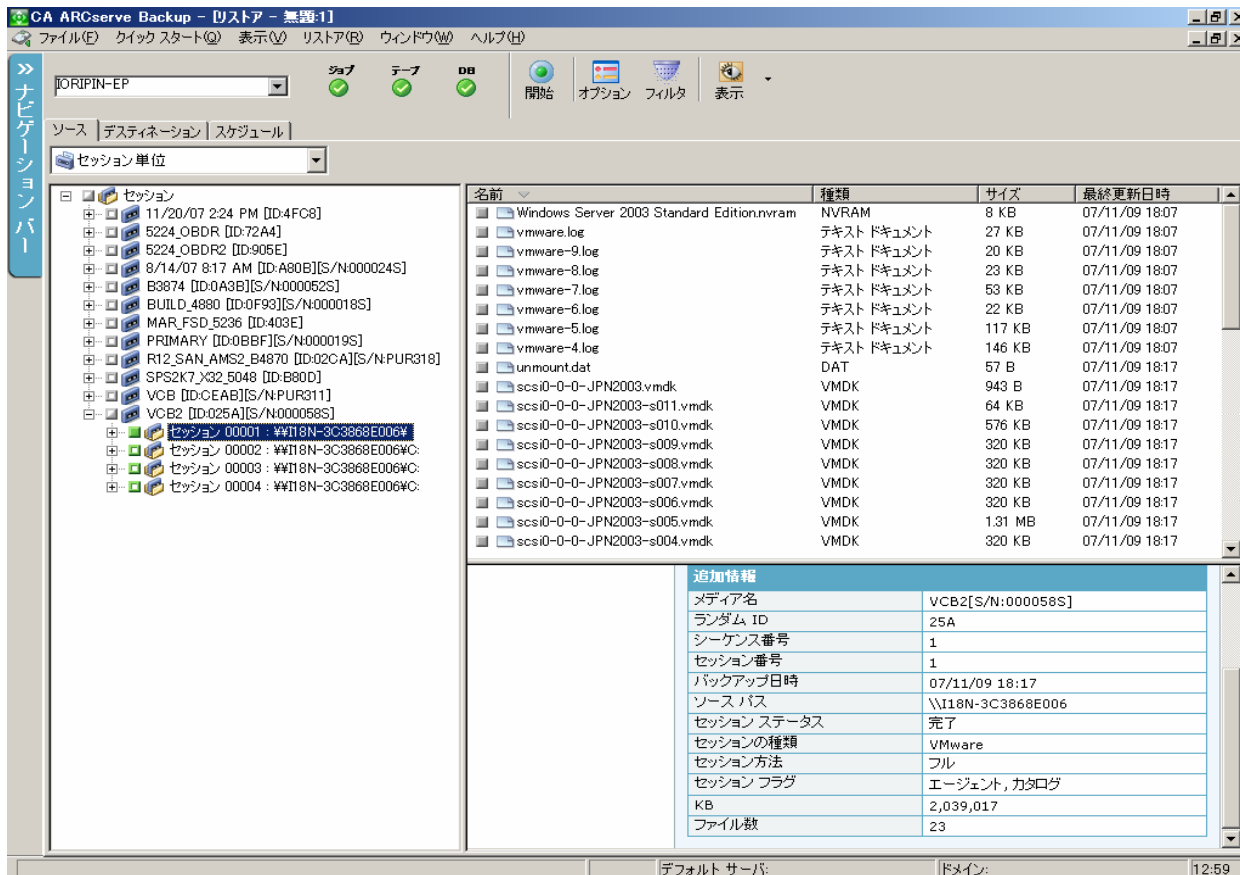
ただし、VM からデータをリストアする場合は、次のような制限があります。

- ファイル レベルのバックアップ (ファイル モード) は、元の場所か複製先にリストアできます。

**注:** ファイルを VM の元の場所にリストアするには、Client Agent for Windows が VM にインストールされている必要があります。

- raw (フル VM) レベル バックアップは、複製先のみでリストアできます。

以下の図では、リストア マネージャで[ソース]タブが表示されています。[セッション単位]オプションが選択されています。セッション単位ディレクトリ ツリーでセッションがハイライト表示されています。



リストア マネージャ ウィンドウのセッション プロパティ セクションには、VMware バックアップ データに関する以下の情報が表示されます。

### VMware プロキシ

この VM をバックアップするために使用されたバックアップ プロキシ システムの名前を示します。

### VMware ESX Server

バックアップ ジョブがサブミットされた際に VM が実行されていた ESX Server システムまたは VirtualCenter Server システムの名前を示します。

### ホスト名

バックアップ ジョブと関係した VM のホスト名を示します。

### セッション方式

VM のバックアップに使用されたバックアップ方式のタイプ (例: raw およびファイル) を示します。

## データのリストア

CA ARCserve Backup を使用してバックアップ プロキシ システム上で VM をバックアップすると、以下の種類のデータをリストアできます。

- [ファイル レベル バックアップ \(47 ページ\)](#)
- [raw \(フル VM\)レベル バックアップ \(50 ページ\)](#)

### 詳細情報

[VCB バックアップ/リストアの制限事項 \(52 ページ\)](#)

## ファイル レベルのデータのリストア

ファイルが誤って破損または削除された場合、VM 上でバックアップされたファイル レベルのデータをリストアすることができます。

raw ファイル レベルのバックアップ データをリストアする場合は、以下の点を考慮してください。

- **Agent for VMware** を使用してバックアップされたデータをリストアするには、**Client Agent for Windows** の現行バージョンはデスティネーション システムにインストールされる必要があります。
- ファイル レベルのバックアップ データのリストアには、**Windows** ベースのクライアント エージェント ファイルのリストアと同じ処理を使用します。

データのリストアの詳細については、「[管理者ガイド](#)」を参照してください。

## ファイル レベルでデータをリストアする方法

1. [リストア マネージャ]を開いて[ソース]タブをクリックし、ドロップダウン リストから、[セッション単位]方式を選択します。
2. 以下の画面のように、ボリュームを参照してリストアするセッションを選択します。

The screenshot shows the 'リストア マネージャ' (Restore Manager) window in the CA ARCserve Backup software. The window is titled 'リストア マネージャ (セッション方法:フル)'. The left pane shows a tree view of sessions under 'セッション単位'. The right pane shows a 'プロパティ' (Properties) window for the selected session, displaying the following information:

追加情報	値
メディア名	VCB2[S/N:000058S]
ランダム ID	25A
シーケンス番号	1
セッション番号	4
バックアップ日時	07/11/09 18:48
ソース パス	C:
セッション ステータス	完了
セッションの種類	VMware
VMware プロキシ	iOripin-EP
VMware ESX Server	usilcert
ホスト名	I18N-3C3868E006
OS の種類	Windows
バックアップ モード	ファイル モード
セッション方法	フル
セッション フラグ	エージェント, カタログ
KB	1,846,146
ファイル数	11,306



3. [デスティネーション]タブをクリックします。[ファイルを元の場所にリストア] チェックボックスをオンにして、ファイルを元の場所にリストアします。

ファイルを元の場所にリストアするには、Client Agent for Windows が VM にインストールされている必要があります。Client Agent for Windows が VM にインストールされていない場合は、データを任意の場所にリストアしてから、ネットワークファイル システム共有を使用して手動で VM にコピーすることができます。

**重要:** VMware ベースのバックアップ セッションを別のロケーションにリストアするには、Client Agent for Windows が複製先のシステムで実行されており、かつ複製先のシステムが Windows Systems オブジェクトに表示されている必要があります。Windows Systems オブジェクトに表示されないシステムにデータをリストアしようとすると、リストア ジョブが失敗します。Windows 32 ビット オペレーティング システムを実行しているローカル システムにある複製先にデータをリストアするには、リストア マネージャの[デスティネーション]タブで Windows Systems オブジェクトの下に仮のホスト名と実際の IP アドレスでシステムを追加します。次にその複製先をローカル システムとして指定してリストア ジョブをサブミットします。

バックアップ データがフル VM バックアップから作成された場合、CA ARCserve Backup は [ファイルを元の場所にリストア] オプションをサポートしません。詳細については、[「raw \(フル VM\) レベル データのリストア」](#) (50 ページ) を参照してください。

4. [スケジュール]タブをクリックして、[繰り返し方法]ドロップダウンからスケジュールを指定します。
5. ツールバーの[サブミット]ボタンをクリックし、ジョブをサブミットします。

[セキュリティおよびエージェント情報]ダイアログ ボックスが表示されます。ジョブをサブミットするには、データをリストアしているシステムのログイン 認証を指定する必要があります。
6. ログイン 認証を[ユーザ名]および[パスワード]フィールドに指定して[OK]をクリックします。

入力されたセキュリティ認証が適用されて、[ジョブのサブミット]ダイアログ ボックスが開きます。

7. [ジョブのサブミット]ダイアログ ボックスでフィールドに入力して、[OK]をクリックします。

**注:** ジョブのサブミットの詳細については、[ジョブのサブミット]ダイアログ ボックスの[ヘルプ]ボタンをクリックしてください。

CA ARCserve Backup がジョブをサブミットします。

**注:** ジョブ ステータスの表示と他のジョブ 関連タスクの詳細については、「管理者ガイド」またはオンライン ヘルプを参照してください。

## 詳細情報

[VCB バックアップ/リストアの制限事項](#) (52 ページ)

## raw (フル VM)レベル データのリストア

VM 上で実行しているオペレーティング システムが、VMware をサポートする Windows ベースのオペレーティング システムでない場合は、VM の raw (フル VM)レベルのバックアップを実行する必要があります。この種類のリストア処理は、惨事復旧に使用できます。

raw (フル VM)レベルのバックアップ データをリストアする場合は、以下の点を考慮してください。

- Agent for VMware を使用してバックアップされたデータをリストアするには、Client Agent for Windows の現行バージョンはデスティネーション システムにインストールされる必要があります。
- raw (フル VM)レベルのバックアップ セッションを VM レベルのディレクトリ ツリー構造で表示して、別のロケーションにフル VM リストアを実行できます。
- Windows または Windows 以外の VM からファイル レベルの単位でバックアップされた raw (フル VM)レベルのバックアップ データをリストアすることはできません。

以下の図のように、リストア マネージャにはセッションレベルの詳細が表示されます。

The screenshot shows the GA ARCserve Backup software interface. The main window displays a list of backup sessions on the left and a detailed view of a selected session on the right. The session list includes various backup sessions, with the selected session being 'セッション 00001'.

名前	種類	サイズ	最終更新日時
Windows Server 2003 Standard Edition\vmram	NVRAM	8 KB	07/11/09 18:07
vmware.log	テキスト ドキュメント	27 KB	07/11/09 18:07
vmware-9.log	テキスト ドキュメント	20 KB	07/11/09 18:07
vmware-8.log	テキスト ドキュメント	23 KB	07/11/09 18:07
vmware-7.log	テキスト ドキュメント	53 KB	07/11/09 18:07
vmware-6.log	テキスト ドキュメント	22 KB	07/11/09 18:07
vmware-5.log	テキスト ドキュメント	117 KB	07/11/09 18:07
vmware-4.log	テキスト ドキュメント	146 KB	07/11/09 18:07
unmount.dat	DAT	57 B	07/11/09 18:17
scsi0-0-0-JPN2003.vmdk	VMDK	943 B	07/11/09 18:17
scsi0-0-0-JPN2003-s011.vmdk	VMDK	64 KB	07/11/09 18:17
scsi0-0-0-JPN2003-s010.vmdk	VMDK	576 KB	07/11/09 18:17
scsi0-0-0-JPN2003-s009.vmdk	VMDK	320 KB	07/11/09 18:17
scsi0-0-0-JPN2003-s008.vmdk	VMDK	320 KB	07/11/09 18:17
scsi0-0-0-JPN2003-s007.vmdk	VMDK	320 KB	07/11/09 18:17
scsi0-0-0-JPN2003-s006.vmdk	VMDK	320 KB	07/11/09 18:17
scsi0-0-0-JPN2003-s005.vmdk	VMDK	1.31 MB	07/11/09 18:17
scsi0-0-0-JPN2003-s004.vmdk	VMDK	320 KB	07/11/09 18:17

追加情報	
メディア名	VCB2[S/N:000058S]
ランダム ID	25A
シーケンス番号	1
セッション番号	1
バックアップ日時	07/11/09 18:17
ソース パス	\\118N-3C3868E006
セッションステータス	完了
セッションの種類	VMware
セッション方法	フル
セッションフラグ	エージェント、カタログ
KB	2,039,017
ファイル数	23

- CA ARCserve Backup は、raw (フル VM)リストア処理に適用されるフィルタを無視します。

注: 詳細については、「[VCB バックアップ/リストアの制限事項 \(52 ページ\)](#)」を参照してください。

#### raw (フル VM)レベル データをリストアする方法

1. [リストア マネージャ]ウィンドウを開いて[ソース]タブを選択し、ドロップダウン リストから、[セッション単位]を選択します。

リストアする raw (フル VM)セッションを参照して、選択します。

2. [サブミット]ツールバー ボタンをクリックし、バックアップ プロキシ システム、または CA ARCserve Backup Client Agent for Windows がインストールされている Windows ベースのシステムにバックアップ データをリストアします。

**重要:** VMware ベースのバックアップ セッションを別のロケーションにリストアするには、Client Agent for Windows が複製先のシステムで実行されており、かつ複製先のシステムが Windows Systems オブジェクトに表示されている必要があります。Windows Systems オブジェクトに表示されないシステムにデータをリストアしようとすると、リストア ジョブが失敗します。Windows 32 ビット オペレーティング システムを実行しているローカル システムにある複製先にデータをリストアするには、リストア マネージャの[ディスティネーション]タブで Windows Systems オブジェクトの下に仮のホスト名と実際の IP アドレスでシステムを追加します。次にその複製先をローカル システムとして指定してリストア ジョブをサブミットします。

注: ジョブのサブミットの詳細については、「[管理者ガイド](#)」を参照してください。

3. 元の ESX Server システムにリストア raw (フル VM)レベルのバックアップ データをコピーします。

4. (VM が存在していた)元の ESX Server システムまたはリモート サーバ システムに VM のバックアップ ディレクトリがコピーされたら、VMware から提供されている vcbrestore コマンド ライン ユーティリティを使用して VM をリストアできます。ただし、vcbrestore ユーティリティの実行前に、以下のディレクトリに格納されている `backuptools.conf` という名前の構成ファイルを更新する必要があります。

```
/etc/vmware
```

構文:

```
vcbRestore -s <バックアップ ディレクトリ>
```

例:

以下の例は、ESX Server システムのローカル ディレクトリ (/home/VM/WIN\_VM1)に VM をリストアする構文です。

```
vcbRestore -s /home/VM/WIN_VM1
```

以下の例は、リモートのサーバ(host\_name.ca.com)からローカル ESX Server システムに VM をリストアする構文です。

```
vcbRestore -s scp://root@host_name.ca.com:/home/VM/WIN_VM1
```

注: バックアップには、完全な VM イメージが含まれている必要があります。バックアップには、VM のすべてのリソース ファイルおよび構成ファイルが格納されている VM フォルダが含まれている必要があります(例: /vmfs/volumes/Volume name/VM-folder)。

## VCB バックアップ/リストアの制限事項

VCB バックアップ/リストア操作には以下の制限事項があります。

- VM をファイル レベルで参照できない。  
`ca_vcbpopulatedb` ユーティリティは、CA ARCserve Backup データベースにボリューム レベルの情報を追加します。
- `ca_vcbpopulatedb` ユーティリティを実行する場合、ESX Server の VM は実行状態である必要があります。  
VM が実行状態でない場合、`ca_vcbpopulatedb` ユーティリティは正確なデータを CA ARCserve Backup データベースに追加しないため、ESX Server システムの VM を正確に検索することができません。
- ESX Server システムの VM または VM のボリュームを追加、削除、または変更した場合はその後で `ca_vcbpopulatedb` ユーティリティを実行する必要があります。  
これを行わないと、CA ARCserve Backup データベースに不正確な VM ボリューム データが表示される可能性があり、実行時に失敗したバックアップ ジョブが発生します。

- VCB バックアップおよびリストアにコマンド ライン サポートはありません(例: ca\_backup および ca\_restore)。

VCB バックアップ プロキシ ベースのバックアップおよびリストアを実行するには、バックアップ マネージャおよびリストア マネージャを使用する必要があります。

- メディア単位方式を使用してファイル レベルおよび raw (フル VM)レベルのバックアップ データをリストアすることはできません。
- バックアップ プロキシ システムを使用してデータをバックアップする場合は、アプリケーション レベルの一貫したサポートはありません。

アプリケーション レベルのデータを保護するには、実行前/後のスクリプトを作成すると、アプリケーション レベルのデータを一貫性のある状態に保持することができます。カスタム スクリプトをフリーズ前および解凍後のスクリプトとして使用することができます。フリーズ前および解凍後のスクリプトの詳細については、「VMware Virtual Machine Backup Guide」(英語)を参照してください。

- 比較ユーティリティでは、VMware バックアップ セッションの比較をサポートしていません。

VMware セッションで比較処理を実行しようとする、CA ARCserve Backup は比較処理の代わりにスキャン処理を実行します。

- エージェントは、以下のグローバル バックアップ オプションをサポートしません。
  - バックアップ ジョブ後にファイルを削除
  - オープン ファイルの再試行

注: グローバル バックアップ オプションの詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

- CA ARCserve Backup データベースでのボリュームの物理的および論理的マッピングの制限により、マージ ユーティリティは、シーケンシャル マージの実行をサポートしていません。

VMware セッションに関するデータを CA ARCserve Backup データベースにマージする必要がある場合は、カタログ データをマージすることができます。

## 詳細情報

[データのバックアップ](#) (41 ページ)

[ファイル レベルのデータのリストア](#) (47 ページ)

[raw \(フル VM\)レベル データのリストア](#) (50 ページ)



# 付録 A: トラブルシューティング

---

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[VM マウント処理の失敗 \(55 ページ\)](#)

[VM マウント解除処理の失敗 \(57 ページ\)](#)

[ARCserve VMware 環境設定ツールまたは ca\\_vcbpopulatedb の失敗 \(57 ページ\)](#)

## VM マウント処理の失敗

Windows プラットフォームで有効

症状:

raw (フル VM) マウント処理またはファイル レベルの VM マウント処理に失敗しました。

解決策:

raw (フル VM) ボリュームでマウント処理またはファイル レベルの VM マウント処理を実行する場合、VCB は最初に VM のスナップショットを作成してから、バックアップ プロキシ システムにファイルをエクスポートします。この問題の原因は複数あり、この問題を解決するためにいくつかの対応を取ることができます。

原因 1:

使用できる十分なディスク容量がバックアップ プロキシ システムに存在しません。

処置 1:

ディスクをクリーンアップする、または十分な容量のある別のボリュームにマウント パスを変更します。

原因 2:

ESX サーバが停止しています。

処置 2:

VM のある ESX サーバが停止している場合、修正作業を行います。

**原因 3:**

VM は一時的にマウント解除されました。

**処置 3:**

VM が一時的にマウントできなくなっている場合は、バックアップ プロキシ システム上の VM に `vcbMounter` ユーティリティを実行します。

VMware VCB Framework をインストールするディレクトリに移動して、コマンド ラインを使用してユーティリティを実行できます。ユーティリティのシンタックスを表示するには、コマンド ラインに以下を入力します。

```
vcbMounter -hel p
```

`vcbMounter` ユーティリティが指定した VM のマウントに失敗した場合は、その問題は、VMware VCB Framework の使用による可能性があります。バックアップ プロキシ システムを再起動して、VM バックアップ ジョブを再サブミットしてください。

**原因 4:**

バックアップ ソースに、指定された Independent (Persistent/Nonpersistent) ディスク モードの VM が含まれていました。

**処置 4:**

VM に関連するすべての仮想ディスクの Independent ディスク モード設定をクリアまたは削除します。

**原因 5:**

不正な VMware ESX Server または VirtualCenter Server ユーザの認証情報でジョブがサブミットされました。認証情報は、[セキュリティおよびエージェント情報]ダイアログ ボックスで指定されました。

**処置 5:**

有効な認証情報で VM バックアップ ジョブを再サブミットします。[セキュリティおよびエージェント情報]ダイアログ ボックスに、有効な VMware ESX Server システムまたは VirtualCenter Server システムの認証情報、およびバックアップ プロキシ システムの認証情報を入力する必要があります。

**原因 6:**

VMware 環境において、VM が利用できません。

**処置 6:**

ARCserve VMware 環境設定ツールまたは `ca_vcbpopulatedb` ユーティリティを実行して、CA ARCserve Backup データベースに VMware 環境の更新された情報を入力します。



## VM マウント解除処理の失敗

Windows プラットフォームで有効

症状:

VM で、マウント処理が正常に実行された後で、マウント解除処理に失敗しました。

解決方法:

マウント解除処理は、以下の条件下で失敗する可能性があります。

- マウント パスが正確でない場合。
- 不正なマウント モードが指定された。例: File または raw (フル VM)。
- いくつかのカタログ ファイルがマウント ポイントで削除されている。
- ユーザが VCB マウント スナップショットを削除したか、削除しようとした。
- VM が VMotion を使用してバックアップ処理中に別の ESX Server システムに移動した。

この問題を解決するには、VI クライアントを使用して手動で VM の VCB マウント スナップショットを削除する必要があります。削除処理に失敗した場合は、VM を再起動して VM の VCB マウント スナップショットを削除します。

マウントおよびマウント解除のログ情報を表示するには、Client Agent インストール ディレクトリにある Mount\_jnl.log という名前のファイルを表示します。

## ARCserve VMware 環境設定ツールまたは ca\_vcbpopulatedb の失敗

Windows プラットフォームで有効

症状:

ARCserve VMware 環境設定ツールまたは ca\_vcbpopulatedb ユーティリティが失敗します。以下のエラー メッセージが ARCserve VMware 環境設定ツールの[結果] フィールドに表示されます。

.NET バージョン >= が見つかりません。ca\_vcbpopulatedb を終了しています。

注: このメッセージは、Windows のコマンド プロンプトから ca\_vcbpopulatedb ユーティリティを実行した際にコマンド プロンプト ウィンドウに表示されます。

### 解決方法:

このエラー メッセージは、Microsoft .NET Framework のバージョン 2.0 以降がバックアップ プロキシ システム上で検出されない場合に出力されます。

この問題を解決するには、以下の手順に従います。

1. Microsoft .NET Framework のバージョン 2.0 以降がバックアップ プロキシ システムにインストールされ、実行されているようにしてください。
2. .NET コマンド プロンプトを開き、Client Agent for Windows のインストール ディレクトリに移動します。デフォルトでは、Client Agent for Windows は以下のディレクトリにインストールされています。

C:\Program Files\CA\ARCserve Backup Client Agent for Windows

以下のコマンドを実行します。

```
regasm vcb_com.dll
```

(オプション) .NET コマンド プロンプトを開くことができない場合は、以下の手順を実行します。

- a. Windows コマンド ラインを開き、以下のディレクトリに移動します。

C:\WINDOWS\Microsoft.NET\Framework

- b. このディレクトリに移動した後、Microsoft .NET Framework バージョン 2.0 以降のディレクトリに移動します。以下に例を示します。

C:\WINDOWS\Microsoft.NET\Framework\v2.0.50727

- c. 以下のコマンドを実行します。

```
regasm <Client Agent for Windows インストール ディレクトリ>\Vcb_com.dll
```

実行が正常に終了すると、以下の出力が .NET コマンド プロンプトまたは Windows コマンド プロンプトに表示されます。

```
Microsoft (R) .NET Framework Assembly Registration Utility 2.0.50727.42  
Copyright (C) Microsoft Corporation 1998-2004. All rights reserved.
```

```
Types registered successfully.
```

# 索引

---

## A

- ARCserve データベースの入力
  - ARCserve VMware 環境設定ツールの使用 - 23
  - コマンド ラインの使用 - 27

## C

- ca\_vcbpopulatedb ユーティリティ
  - 実行 - 35
  - 引数 - 27
  - リターン コード - 34

## V

- VCB の制限事項 - 13
- VM のバックアップ - 11

## あ

- インストール
  - サーバ管理 - 17
  - 標準 - 16
- インストールの前提条件 - 16
- エージェント
  - アンインストール - 36
  - インストール - 16, 17
  - プレフライト チェック ユーティリティ - 43
  - ライセンス登録 - 15
- エージェントの設定 - 16

## か

- カスタマ サポート、お問い合わせ - v
- 仮想マシンの管理 - 9
- 環境設定ファイルの作成 - 30

## さ

- サポート、お問い合わせ - v
- 参照
  - バックアップ ボリューム - 37
  - リストア セッション - 45

## た

- データのバックアップ - 41
- データのリストア
  - raw (フル VM)レベル - 50
  - ファイル レベルのデータ - 47
- テクニカル サポート、お問い合わせ - v
- テクニカル サポートへのお問い合わせ - v

## は

- バックアップ データのフィルタ - 44
- バックアップ プロキシ システムの使用 - 17
- バックアップ モード
  - Raw モード - 39
  - ファイル モード - 39
- プレフライト チェック ユーティリティ - 43

## ら

- ライセンス登録 - 15
- リターン コード - 34